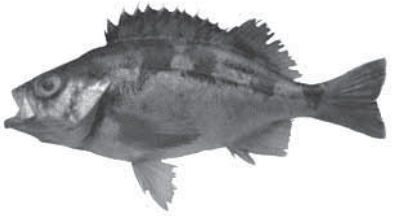
ウスメバル *Sebastes thompsoni*



地方名：てんから（小泊）、てり（岩崎）、つき

生態

①寿命：10 年以上
②成熟：3 歳（尾叉長 18cm）以上
③産仔期：12 月ごろ交尾し翌年 4 月～5 月にかけて産仔。
④分布：日本海では石狩湾から対馬海峡まで、太平洋では函館から銚子まで。
⑤生態：卵胎生魚。体長 4mm～5mm で産出。体長約 16mm まで表層で浮遊生活。体長 40mm～60mm までを流れ藻に付随して生活。その後ごく沿岸で底生生活を送り、成長と共に沖合に移動。3 歳以上になると 80m～150m の岩礁域に生息。

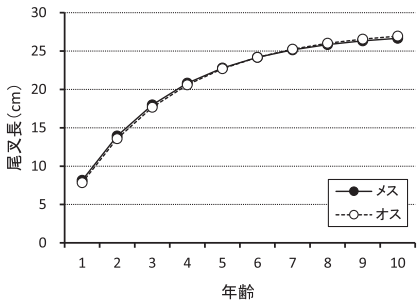


図　青森県日本海海域における
ウスメバルの成長

出典：菊谷（2001）メバル類の資源生態の解明と管理技術開発. 37-43.

主な漁業

青森県日本海では 6 月～8 月に刺し網で、一本釣では周年漁獲され、盛漁期は 5 月～8 月。主に水深 80m～150m で漁獲される。日本海以外の海域では一本釣、本県太平洋北部では 5 月～6 月に底建網により漁獲される。3 歳～4 歳から漁獲される。

資源の動向と水準

漁獲量は、2011 年以降の減少傾向から 2017 年に増加に転じたものの、2024 年には 207 トンと減少した。2024 年の資源動向は、コホート解析により推定した資源量の直近 5 年間の傾きから減少と判断した。資源水準は、推定した資源量を判断材料とし、その最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。



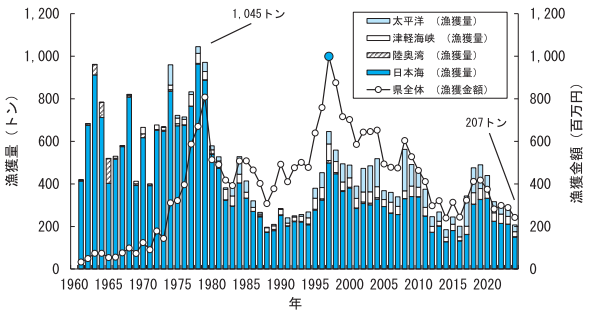


図　青森県ウスメバルの漁獲量及び漁獲金額の推移

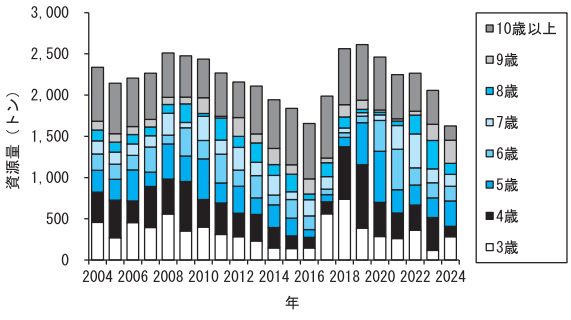


図　青森県日本海～陸奥湾ウスメバルの資源量の推移

資源を上手に利用するために

○資源管理計画（小泊漁協、下前漁協　1993 年 3 月）
○青森県ウスメバル資源回復計画（大間越漁協～岩屋漁協　2007 年 3 月）
・小型魚の荷受け制限、休漁日の設定（日本海のみ）を定めた。
☆上記のように小型魚漁獲を自粛する取組を継続することが必要である。

トピックス

・陸奥湾で採集した稚魚を中間育成し標識放流及び種苗放流を行っている。2010 年以降では 22,738 尾の標識放流が行われ 9 尾の再捕があった。2024 年は平均全長 15.3cm の 2 歳 750 尾にダートタグの標識を施して放流した。